

事例3-6



取組名	町会イベントクーポン券の配布等による町会の活性化		
町会名	ことぶきしらかわ 寿白川町会（寿地区）	町会 データ	・人口／1,634人 ・世帯数／704世帯 ・高齢化率／28.8% ・町会加入数／397世帯 ・常会数／9常会 ・隣組数／44組
取組概要	○ コロナ禍で途絶えていた行事を復活・リニューアル ○ 「町会イベントクーポン券」の配布や「町会長特別補佐」の任命など、独自のアイデアで町会の活性化を図るもの。		

背景・課題

- ・ 昔は常会ごとに新年会や花見などを行い、顔の見える関係づくりができていたが、コロナ禍で活動を自粛。町会や常会の必要な活動まで止めてしまったことで、住民の町会離れを加速させている。
- ・ 一度中断した町会行事の復活は、時がたてばたつほどハードルが高くなるため、早めに手を打っていく必要がある。

経過・取組内容

① 行事の復活・リニューアル

- ・ 高齢者クラブ（R4年度に解散）が実施していた日帰りバス旅行を、R6年から町会の福祉事業として引継ぎ実施。
- ・ コロナ禍以降中止していた「常会対抗カラオケ大会」は、R5年度から「町会カラオケ愛好者の集い」として再出発した。
- ・ 従来、会員のみを対象に実施していたグランドゴルフ大会を、常会対抗の大会に変更し、誰でも参加できるものにした。

② 町会イベントクーポン券の配布

- ・ R4年度以降、コロナ禍の最中に町会に新規加入した27世帯に対し、R7年度に「町会イベントクーポン券」（世帯当たり年間2千円分）を配布した。
- ・ クーポン券は、夏まつりやカラオケ大会などの町会行事の際に利用でき、行事への参加を促すことを目的としたもの。

③ 町会長特別補佐の任命

- ・ R6年度末、若年層の町会参画を促すため、小学生2名を「町会長特別補佐」に任命し、7年度総会の際、手作りの缶バッジと委嘱状を手渡した。
- ・ 2名のうち1名は、夏まつりの司会進行と大声大会の補助を担い、カラオケ大会にも参加してくれた。また、もう1名は、夏まつりのクイズラリーの企画運営を担った。
- ・ 小学生が出題するクイズやなぞ解きは、町会役員会の際にも提供され、資料に入れて配布されている。

成果・今後の展望等

- ・ 町会に対する関心が低下する中、現在に見合った形で行事を復活させることで、新たな参加者の獲得や世代を越えたコミュニケーションの機会が生まれている。
- ・ 夏まつりの際、実際にクーポン券を持った人が来場するなど、町会活動への参加意識を高めることができた。
- ・ 子どものときに町会と関わった経験は、将来の糧になるため、町会長特別補佐の任命は、未来への「種まき」

【ポイント】

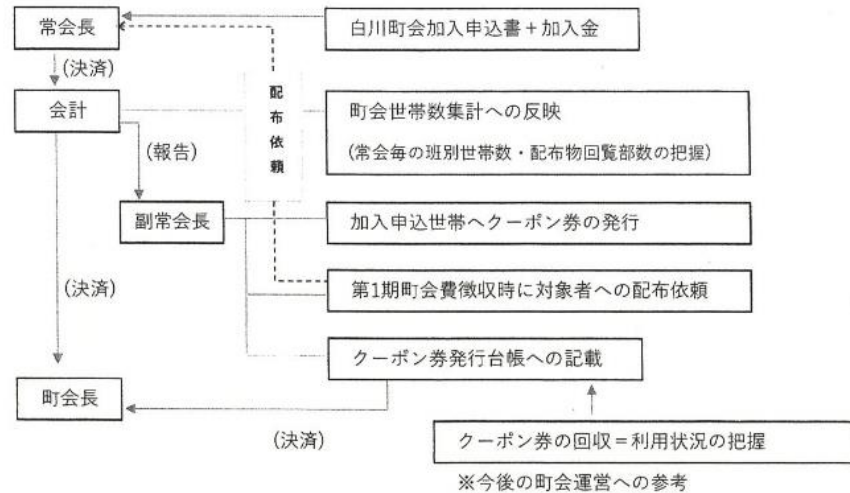
- ▼ 既存の行事を現在に見合った形で再生
- ▼ 若年層の参画機会を設けることで、未来の担い手を育成

4 クーポン券の発行(配布)、管理

配布初年度の令和7年度については、配布者が27名(27名×2, 000円)と多いことから、主な町会イベントを担う公民館事業費の予算を当初予算において若干増額を見込む。

クーポン券の発行は副町会長の任とし、町会長の決済の基台帳管理とする。尚、配布に当たっては、町会費の徴収時において常会長(班長)よりお渡しする。

《クーポン券の発行と適正管理》



町会イベントクーポン券の説明資料(寿白川町会総会資料より)

白川町会 イベントクーポン券 様 このクーポン券は町会に新規加入された世帯にお配りをしています。 ご活用ください。尚、釣銭は出ませんのでご了承ください。 町会長 使用期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日		
500円 町会印 使用期間：R7.4.1～R8.3.31 8	300円 町会印 使用期間：R7.4.1～R8.3.31 8	200円 町会印 使用期間：R7.4.1～R8.3.31 8
500円 町会印 使用期間：R7.4.1～R8.3.31 8	300円 町会印 使用期間：R7.4.1～R8.3.31 8	200円 町会印 使用期間：R7.4.1～R8.3.31 8

新規転入者に配布された「町会イベントクーポン券」

陽くんからの挑戦状
 Vol. 12

？に入る2月が旬の海の生き物は

うに	ねぎ	あき
↓	↓	↓
逆から読むと	逆から読むと	逆から読むと
↓	↓	↓
いぬ	いげん	？

[答え]
 いが
 ※ローマ字にして逆から読む

[白川町会]

町会役員会に提供された「謎とき」